

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 財団法人 新宿文化・国際交流財団

1 事業の趣旨・目的

来日児童生徒の学校への適応を目指し、日本語及び教科指導を支援できる人材を養成する。

来日児童生徒の現状を知る。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
平成 21 年 6 月 18 日	新宿文化 センター1 階 会議 室	企画委員 5 名	「外国につながるのある子どもたちに対する日本語教育支援者養成講座」の内容の検討	・ 委員自己紹介 ・ 事業の実施目的の確認 ・ 予算の確認 ・ 学習内容、方法の検討 ・ 意見交換
平成 21 年 12 月 1 日	しんじゆく 多文化共 生プラザ 多目的ス ペース	企画委員 4 名	「外国につながるのある子どもたちに対する日本語教育支援者養成講座」実施成果の取りまとめ	・ 委員からひとこと ・ 事業報告 ・ 収支報告 ・ 意見交換 ・ 実施成果のとりまとめ、評価 ・ 今後について ・ 事務連絡

3 養成講座の内容について

- (1) 養成講座名 外国につながるのある子どもたちに対する日本語教育支援者養成講座～退職教員および教育経験者のための日本語教育支援者養成

(2) 養成講座の目標 来日児童生徒の学校への適応を目指し、日本語及び教科指導を支援できる人材を養成する。来日児童生徒の現状を知る。実際に活動をする。

(3) 受講者の総数 32 人

(4) 開催時間数(回数) 33 時間

講座9回(28 時間)

実習 5 時間

(5) 参加対象者の要件 教員、教育の経験があり、外国につながりのある子どもたちに日本語を教えたい人

(6) 受講者の募集方法

募集チラシを作成し、区内各施設、日本語関係団体、教育委員会に配布

財団ホームページ掲載

新宿区広報、財団広報で周知

メーリングリストで日本語関係者に情報提供

(7) 研修会場

新宿区立しんじゅく多文化共生プラザ

実習・・・榎児童センター、大久保児童館

(8) 使用した教材・リソース 講師作成のレジュメ

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
6 月 28 日(日) 13:00～17:00	2 時間 ・ オリエンテーション ・ ワークショップ 2 時間 ・ 外国につながりのある児童生徒の状況	NPO法人 みんなのうちに 理事 小林普子 東京学芸大学教授 斎藤ひろみ	27 名

7 月 5 日(日) 13:00～16:00	多文化社会と子どもの 言語学習支援	国立国語研究所 野山広	25 名
7 月 12 日(日) 13:00～16:00	外国につながるの ある児童生徒の学校 での支援状況	新宿区立大久保小学校 教諭 ・ 目白大学非常 勤講師 善元幸夫	18 名
7 月 19 日(日) 13:00～16:00	年少者日本語指導 法概論	波多野ファミリースク ール 大蔵守久	23 名
7 月 26 日(日) 13:00～16:00	現場教師に学ぶ年 少者の日本語教授 法—日本語(読解)を どう教えるか—	多文化共生センター東京 代表 王フィジン	24 名
8 月 2 日(日) 13:00～17:00	3 時間 現場教師に学ぶ年 少者の日本語教授 法—日本語の文章 理解と文型をどう教 えるか— 1 時間 実習について	多文化共生センター東京 代表 王フィジン NPO法人 みんなのおう ち 理事 小林普子	22 名
8 月 9 日(日) 13:00～17:00	2 時間 退職教員としての外 国にルーツのある児 童生徒への支援とボ ランティア活動—新 宿区のケース 2 時間 退職教員としての外 国にルーツのある児 童生徒への支援とボ ランティア活動—墨 田区のケース	元中学校教諭 田中克子 元中学校教諭 藤田京子	20 名

8 月 10 日～9 月 5 日	5 時間 実習:支援活動現場 「こどもクラブ新宿」で ある榎町子ども家庭 支援センターと大久 保児童館で受講者全 員実習	「こどもクラブ新宿」コー ディネーター 小林 普 子、梶村勝利、合崎博 子、安藤句美子	期間中、火・ 水・木・金・土 の活動日の 中で 5 時間 選択し、実習
9 月 6 日(日) 13:00～16:00	バイリンガルの子育 ての親の立場	藤田ラウンド幸世	新型インフル エンザのため中止
9 月 13 日(日) 13:00～17:00	3 時間 実習の振り返り 1 時間 講座全体の振り返りと 今後のボランティア 活動	「こどもクラブ新宿」コー ディネーター 小林 普 子、梶村勝利、合崎博 子、安藤句美子	12 名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

[講座への感想]

- ・ 子どもの可能性、頑張る姿、強さを感じた。座学として後進のラインナップもよく、いい学びができた。理論と実践が学べてよかった。
- ・ 相手によってやり方を変えなければならないことを実感した。子どもによって対処の仕方を考えなければならない。
- ・ どの先生も経験を交えての話で、苦労しながら現在へ到達していると思った。
- ・ 母語で対応する必要を感じた。
- ・ 外国にルーツのある子どもの環境が様々であることがわかった。
- ・ グループワーク後の発表という授業はよかった。
- ・ 論点がしっかりしているこの道の第一人者が揃っている点がよかった。
- ・ 日本語の初期(入門)の支援(指導)がどのようなものなのかのイメージがつかめないまま、この講座を終わった受講者も少なくないのでは・・・という点が気になる。
- ・ 外国につながるのある子どもたちのうち、6割の子どもたちが日常生活のコミュニケーションに不都合があるとのことで、子どもたちへの日本語支援の必要性を強く感じた。
- ・ 日本語が理解できず、勉強する意欲を失った子どもが不登校になり悪の道に入るのを防止するためにも、日本語支援を通して子どもたちの力になりたいと思う。
- ・ 外国にルーツのある子どもたちは、自分が選択したわけではない立場におかれていると

いう話しが印象的。日本にあとどれくらい滞在するのか、母国に帰るのかわからない。そういう中で、子どもたち一人ひとりに対し、何が大切なのか向き合うことが大切だと思った。

- ・ 外国にルーツのある子どもとその親をサポートするには、問題を大きく把握する視点を持つことと、実践的なテクニックを身に付けることの両方が必要だと認識させられた。
- ・ 概論的な部分と各論的な部分のバランスがとれた構成だった。

[実習への感想]

- ・ ボランティア側が勉強しなくては、と思った。
- ・ 学習意欲も子どもにより様々だとわかった。
- ・ ボランティアの方が大勢活躍されていることがすごいと思ったが、ボランティアにばかり頼っていていいのかな、と感じた。
- ・ 実習のターゲットについて(担当について)事前に決めて予習などをしてから指導したほうが、手ごたえがわかりやすいと思った。
- ・ 学科の支援にあたっては、事前に十分な準備が必要と思われるので、ボランティアには大変な負担になっているのではないかとわかった。

② 実施主体からの研修内容結果評価

講座の評価については、1評価できた点、2反省すべき点の2項目に分けて述べる。

1評価できた点

- ・ 様々な専門性を持った講師の話が聞けた。
- ・ 講座で理論と実践が学べた。
- ・ 実習で支援現場を見たり、支援を経験したことがボランティア活動を希望する動機付けになった。また支援現場では誰もが感動を持ってくれた。結果、座学だけではなく実学を設定したことがよかった。
- ・ ・現場を持っている講師からの講義であったため、心にひびく内容となった。
- ・ ・実際教員や教育関係者として子どもたちと関わったというベースのある上で、今回の講座を受けたことは大変意義のあること。今後もこのような形で開催していきたい。

2反省すべき点

- ・ 実習の目的が事前にはっきりしていたら実習が効果的になった。
- ・ 実習が子どもの少ない時期(夏休み)だった。
- ・ 教科をどのように教えるのかを学ぶ講座も必要だった。
- ・ 新型インフルエンザのため藤田ラウンド幸世先生の講座が実施できなかった。事前に不足の事態を予想して予備日を設けておくべきだった。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

財団としても支援者を増やし、子ども達の支援を積極的にしていきたいと考えるため、今後も今回のような講座を実施し、退職教員や教育支援者のネットワークを構築していきたい。

また、子ども達への支援として、次のようなことも財団の役割として引き続き実施、また提案していきたい。

【放課後日本語学習等支援】

学校の放課後を利用した放課後支援。および支援者養成。

【夜の子ども日本語教室「こどもクラブ新宿」の運営】

「こどもクラブ新宿」の運営、および支援者養成。

【親子日本語教室】

親と子がいっしょに参加できる「親子日本語教室」を大久保小学校で実施し、外国人の親子が日本語や学校生活、日本の文化について学ぶ場を提供するとともに、他の参加者やボランティアと交流する「居場所」とする。

【通訳・翻訳サービス】

当財団に登録している通訳・翻訳ボランティアを活用して、学校便りや、学校から保護者への連絡文書などを多言語に翻訳する。保護者会、三者面談などでも必要に応じてボランティアを派遣する。

【外国系の子どもたち支援活動に関わるボランティア養成】

外国人ならびに日本人のボランティアを養成し、直接、子どもたち支援のボランティア活動に関わる人を増やしていく。

【教員向け研修プログラムの提案】

外国系の子どもたちを受け入れる現場にいる教員を対象にした研修プログラムを教育委員会に提案する。

【外国人相談窓口】

区役所本庁舎としんじゅく多文化共生プラザに常設している「外国人相談窓口」で、子どもたちの保護者や子どもたち自身に関する相談にのる。

【ネットワークづくり】

区内で外国系の子どもたち支援の活動をしているさまざまな団体やボランティアに呼びかけ、新宿区教育委員会を中心としてそれぞれの提供できる活動をまとめ、全体で動くしくみをつくるなど、具体的なコーディネートをする。

【適応指導(初期)の内容の提案】

適応指導の初期指導のカリキュラムの提案を日本語の専門家や学校と意見交換しながら提案する。

【日本語学習コーナー】

しんじゅく多文化共生プラザ内日本語学習コーナーの活用(日本語に関する書籍・情報提供)

【教育関係組織への支援】

以下の点を提案し、協力・支援していく。

- ・転入学してくる外国系の子どもたちがスムーズに学校生活に溶け込めるしくみづくり。(コーディネーターの配置)
- ・外国系の子どもたちの保護者、教員への十分な情報提供(日本語が十分理解できない保護者への支援、外国系の子どもに対応するための教員研修)
- ・外国系の子どもたちを対象とした、高校進学のための進路指導

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

文化庁の他事業への申請をしていないため、なし

② 研修後の人材活用

研修後、実習先(こどもクラブ新宿)にボランティアとして参加することを決めた人が数人。その他、「放課後日本語学習等支援」事業での活用も考えている。

(12) 今後の課題

新宿区における外国人登録者数が3万4千人を超え、新宿区の総人口の約11%を占めている。外国人登録者数に増加に伴い、外国につながりをもつ子どもも増加している。と同時に子どもたちへの日本語学習支援は必要不可欠なものとなっている。当財団も平成21年4月から、児童生徒の放課後支援、そして夜の子ども日本語学習支援を実施している。これらの実現は財団、新宿区の関係部署である文化観光国際課、教育委員会、関係団体、ボランティアの方々との連携によるものである。放課後支援に関しては、初めての試みであるため、試行錯誤の部分がある中、子どもたちを取り巻く環境(保護者、学校、地域、ボランティア、関係機関、関係団体など)と連携してすすめている。

また、子どもたちのことだけではなく、いかに保護者に日本の現状などを理解してもらうかも重要な課題である。保護者も巻き込むような支援の方法を考えていきたい。そして、子どもと間近で接していく教員向けの研修も教育委員会に提案、また教員向けに十分な情報提供も必要である。

その他、児童生徒個々の情報が蓄積されることで、その後末永くその児童生徒の日本語に関する情報を把握できるようにし、連続的な支援につながるようしくみづくりをしていきたい。そして、児童生徒がいつでも安心して戻れる居場所づくりにつなげていきたい。

